

教科 地理歴史 科

科目	日本史B	学年・コース	3 学年	地域政策・情報 コース	単位数	3 単位	区分	必修
学習の目標	日本の歴史の展開を、アジアのみならず世界史的視野から総合的に考察することによって歴史の見方・考え方を身につける。日本文化の特色や伝統の形成過程についての認識を深めることによって、国際社会を主体的に生きる日本人としての資質を養う。							
教科書	『高等学校日本史B新訂版』(清水書院)							
補助教材等	『プロムナード日本史』(浜島書店)							
学期	月	学習内容			学習のねらい			時間
1 学期	4	第1編 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 日本の旧石器時代 2 縄文時代			・旧石器、縄文、弥生時代とつづく日本の原始社会の流れを、人間の生活の変化を中心にとらえ、邪馬台国成立までの過程を、東アジア全体の視点で考察する。			12
	5	3 縄文人の暮らし 4 邪馬台国 第2章 古代国家の形成 1 ヤマト政権の出現			・世界史的な旧・新石器文化の時代区分と、日本の原始社会の時代区分を対照させて理解する。			12
	6	2 倭王の外交 3 古墳文化の変質 4 推古朝と飛鳥文化 第3章 古代国家の成立			・中国王朝の分裂が周辺民族の自立化を促進させ、諸国家形成につながったことを理解し、ヤマト政権の実態と古墳文化の進展について考察する。 ・推古朝の特徴と飛鳥文化の国際色を学ぶ。			7
2 学期	7	1 律令体制の成立 2 律令体制下の社会 3 奈良時代の政治 4 天平文化			・唐の成立により日本でも権力の強化が図られ、律令の法体系が整備されたことを理解し、律令体制の特徴をとらえる。			8
	8	第4章 古代国家の推移と社会の変化 1 桓武天皇の律令再建 2 平安初期の文化			・政界の変遷を土地政策の変化と関連させながら考察する。また、国家仏教の政策が文化に与えた影響を理解する。			
	9	3 藤原氏の発展 4 国風文化と浄土教 第2編 中世			・律令制度再建に努めた桓武・嵯峨朝の政治内容を、北家藤原氏発展の流れと絡めながら把握する。			8
	10	第1章 中世成立期 1 中世の社会的構造 2 武士の成長 3 内乱後の社会と過渡			・撰閣政治の特徴を考察し、同時に地方政治の変化と律令制度の崩壊について理解する。			9
3 学期	11	院政期の文化 第2章 武家政権の成立 1 平氏政権と鎌倉幕府 2 鎌倉幕府の勢力拡大			・弘仁・貞観文化と国風文化を対照し、大陸文化を消化していく経過を学ぶ。 ・社会の根幹となる荘園公領制について、その複雑な構造を要約して理解する。			10
	12	3 地頭の荘園支配 4 鎌倉新仏教 5 鎌倉文化			・武士の発生と成長過程を、源平の対立を軸に考察する。			9
	1	6 鎌倉時代の社会経済 7 鎌倉幕府の滅亡			・本格的な武家政権の成立から発展に至る過程を、古代的要素の継承と解体を通し			
	2	第3章 室町幕府			・東アジア(宋・元)との関わりを政治的文化的に考察する。			10
	3	建武政権と内乱から中世近世社会へ			・東アジア(宋・元)との関わりを政治的文化的に考察する。			10

評価の観点	知識・技能	我が国の歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解しているか。また資料から歴史に関する情報を調べ、まとめる技能があるか。
	思考・判断・表現	出来事を多面的にとらえ考察しているか。グループ学習において、積極的に自分の意見を言っているか。
	主体的に学習に取り組む態度	日本の歴史に興味・関心を持ち、意欲的に学習しているか。授業ノートをしっかりととり、プリント等の課題にも積極的に取り組んでいるか。